

Shaffer, Howard J., Christopher R. Freed, and Daryl Healea. "Gambling disorders among homeless persons with substance use disorders seeking treatment at a community center." *Psychiatric Services* 53.9 (2002): 1112-1117.

路上生活者とギャンブル依存症の関係性を調べた論文である。調査は、1998年と2000年のパネルデータが使用され、171名の路上生活を対象に実施された。論文内では、路上生活者のギャンブル依存症レベルを測定するため、DMS-IV基準が用いられ、12の質問が使用された。その質問の回答から、路上生活者が3つのレベルに分けられ、Level 3からギャンブル依存度が高いと定義された。Level 3と診断された路上生活者は、路上生活者になっている期間が長い（若くから路上生活者になるものが多い）、依存症治療に頼るものが多い割合であることが判明した。さらに、ギャンブル依存（Level 2）以上のものは、ギャンブル依存していないものに比べて、路上生活者に陥る可能性が高くなっていること、若くから路上生活者になる確率が高くなることが判明した。